

▼避難インフルエンサーQ&A



Q 自分が不在の時にはどうすればいいの？

A 不在の時など、声かけできない時は、声かけしていただかなくて構いません。避難インフルエンサーは、義務や責任を負うものではありません。可能な範囲での声かけをお願いします。

Q 呼びかけに応じない家はどうすればいいの？

A ご近所の人を無理やり引っ張っていく必要はありません。自分が避難することを伝え、避難する姿勢を見せていただくことが大切な活動です。声をかけられたり、他の人が避難するのを見たりするだけで、その人の避難の決断を促す効果があります。

Q 避難インフルエンサーには個別に避難情報などの連絡がくるの？

A 緊急的な対応を要する災害時、申し訳ありませんが、個別に連絡をすることができません。そのため、避難インフルエンサーの皆様からは、緊急情報メールや市ホームページ、テレビなどで災害時には積極的な情報収集をお願いします。

緊急情報メールの登録はこちらから→



Q どこに避難すればいいの？

A 市の指定避難所だけでなく、親戚の家、知り合いの家など人によってさまざまです。お近くの市指定避難所の位置は、ハザードマップ等で日頃から確認をお願いします。

ほかのまちの避難インフルエンサー

令和2年7月豪雨により、7月4日、熊本県相良(さがら)村で球磨(くま)川が氾濫しました。

相良村柳瀬十島区(としまく)の西村地区では、班長の西村さんが役場からの連絡を受けて川の水位を監視していました。水位が上昇を続けていたため、西村さんは危険を察知し、地区の全18戸を1軒1軒回り、「はよ逃げろ」と避難を呼びかけました。

この呼びかけで、住民約50人それぞれが何とか避難し、集落では最大2mも浸水しましたが、犠牲者が出ませんでした。避難した人は「これまで3回ほど床下浸水を経験していたので、今度も大丈夫だと思っていた。西村さんのおかげで無事、避難できた」と話していたそうです。

また、十島区の区長さんは「日頃からの強い地域のつながりがあったからこそ住民総出の避難ができた」と話していたそうです。

